



見頃の薬用植物

オウレンの花が咲きだすと、寒さの中にも春の訪れを感じます。

■オウレン

Coptis japonica, *C. chinensis* など

生薬名：黄連

薬用部位：根茎

薬効：苦味健胃、鎮静、止瀉



オウレンは雪解けの時期を待たず、山奥の日陰にひっそりと咲く。いっけん花のように見える白い部分は「がく」で、雄しべのように短く小さいのが花。



学名の *Coptis* はギリシャ語 *Koptis* (切片) で、葉の縁にギザギザの切れ込みがあることに由来する。葉は常緑で光沢があって美しく、鉢植えでも売られている。

地下部はヒゲ根が多いため焼いて除き、根茎だけにしたものが生薬「黄連」。根茎の断面は鮮やかな黄色で、ぼこぼこした節が連なった珠のようであることから名付けられた。通常、棒状であるが、鶏の足先のような形態をしているものもある。

根茎にはベルベリンなどのアルカロイドが含まれ、味はとても苦い。古くから胃腸の薬として欠くことのできない要薬で、消化不良や食欲不振に効果がある。また下痢、目の充血、精神不安などの症状にも幅広く使われている。

生長の遅い植物として知られ、樹林下に自生または栽培されているが、根茎が生薬として用いる大きさに生長するまでに10年近くかかるため、値段も高い。かつては国内でほぼ100%自給され、輸出もされた数少ない生薬であったが、近年は安価な中国産に押されている。

